

SSKA

膠原

No. 24



お知らせ

第四回全国総合の延期……

本部運営委員及び支部長合同会議開催

膠原No.23にて第四回総合の日程をお知らせいたしました。種々困難な事情が重なり、予定されていた十月を延期、運営委員と支部長さんとの話し合いの会を十一月八日に行うことになりました。友の会が出来て四年、このへんでじっくりと話し合い今後の会の方針等をきめてから、あらためて総会を開く予定です。

総会出席を予定されていらつした方々には深くお詫びを申し上げます。

なお、前小野寺会長より会の皆様へとお手紙と金一封が届きました。「いろいろお世話になりました。心の整理ができました。紙上をもってお知らせいたします。」との事

甲 辞

本年九月三日、元膠原病友の会会長小野寺哲郎氏の夫人雅子さんは、四年間の闘病生活を経て御永眠なさいました。

雅子さんは昭和四十六年頃日光過敏、蝶形紅斑などの症状を併って発病し、SLE（全身性エリテマトーデス）の診断のもとに治療をうけていました。昭和四十九年一月頃より当院膠原病内科で通院治療されておりましたが、八月十九日に食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、血尿等を訴えられ当院緊急入院となりました。以前より陳旧性腸結核ありとの診断がされており今回はそれに加え、脱水症状、心不全、気管支肺炎、腎機能障害等を認め、出血傾向も出現し種々の治療を試みましたが効果はなく九月三日の朝、不帰の人となりました。まだ三十四才という若さで、ご主人と二人の幼いお子さんを残して亡くなられた雅子さんの心中を思いますと、察するに余りあるものがございますが、幸い御主人の御理解で御遺体は当院病理学教室で解剖させていただきます、まだまだ未知なこの病気の本態解明に、貴重な貢献をしていただきました。我々一同この悲しい教訓を今後の患者さん方に生かし一人でも多くの生命を無駄にすることのない様に努力していきたいと思っております。

終りに臨んで衷心より雅子さんの御冥福を御祈り申し上げます。

昭和五十年十月九日

順天堂大学膠原病内科

松岡和子
橋本博史
塩川優一
教室員一同

前会長小野寺哲郎氏に捧ぐ

奥様雅子さんの逝去を悼んで

九月三日の朝、奥様は、愛する貴君や、二人の可愛いお子様を残され、三十四才の若さで、逝去されました。私達は強烈なショックを受けると共に、病気の恐さを再度認識致しました。思えば三年前の春、貴君とはSLEの妻をもつ仲間として、佐藤エミ子さんの紹介で知り合いました。『医師である弟の言葉によると、三年の命だと云われたが本当だろうか』と、素朴な話から結局は、家族の愛情やいたわりが大切だから、悔いのない看病をしてやろう、三分の一人前と思えば良いではないかと、二人だけで結論を出しました。その後、貴君は大手船会社の高級船員の職を休職され、陸上勤務の出来る外郭団体に移られ友の会の運営委員として、活躍され昨年十月の第三総会ではお嬢さんを亡くされて、会長を辞された河西氏の後をついで会長の重責を受けて頂きました。貴君が奥様に対する気持には頭が下る思いがしました。ハリ、キョウ、漢方薬、整体、いろいろな話しを聞き、研究されています。障害年金について私達に指導し活動の方針を示唆してくれた貴君。その貴君がどうしても乗船しなければいけないと、会

長を辞されたのは六月の運営委員会、病む妻を残して外国航路に出る貴君の気持は、察して余りありました。奥様も貴君も待ち望んでいた名古屋入港のその日に、三時間の差で会われず亡くなるとは……………

私は天を恨みました。然し小野寺さん奥様はきつと、『素晴らしい夫を以って、短い一生だったが幸せだった。』と思っていられるのではないのでしょうか。久し振りに航海から帰ったババの背中に武者振ついて離れない二人のお子様をみた時、思わず目頭が熱くなりました。二人のお子様のためにも、再出発されます様祈ります。頑張ってください。

運営委員 塩地一成

(ひとを失なう悲しみは、それが肉親であれ、友であれ、人間生まれいづる悩みに通じる苦しみであると思います。別れ、それはたえがたい深い悲しみです。でも生まれて来た以上、まぬがれることのできない宿命でもあります。幾多の悩みや苦しみを乗り越えることによって、人は夫々強くなってゆくのでしょう。今日も又、宿命のもとに何万かの人が生まれ、何万かの人が別れていつているのです。

皆様、失った人はかえらずとも、悲しみにおぼれず、あたたかい心の交流で強く生きて参りましょう。)

佐藤

一 ナ コ 談 相 療 医

問 小児の多発性筋炎について

答 多発性筋炎と皮膚筋炎とは、本質的には同じ病気であると考えられます。多発性筋炎に特徴的な皮疹を伴った場合を皮膚筋炎と呼びます。したがって広い意味で多発性筋炎と呼ぶ時は、皮膚筋炎もこれに含めてしまいます。

この病気はすべての年齢層におこり、2才以下にも70才以上でも発病することがあります。もっとも多いのは50-60才ですが、これとは別に5-15才にもう一つの山が見られるという報告もあります。小児期での正確な頻度はつかめていませんが、筋ジストロフィーよりはるかに少ないと言われています。

多発性筋炎はいくつかの病型に分けられますが、小児期では特徴的皮疹を伴うことが多く、小児皮膚筋炎として一つの病型に分類されています。小児期での発病の仕方は非常に多様であるとされています。もともと問題となる筋力の低下にしても、急速に進行するもの、ごく軽度で慢性に経過するもの、などがあります。いずれにしても放置しておくことと四肢の筋肉の拘縮や萎縮がおこりやすいので、正しい診断と治療をうけなければなりません。

成人とくらべて小児皮膚筋炎の特異な症状は、しばしば激しい腹痛をおこすことです。ひどくなると下血や吐血をみることもさえあります。これは腸管の血管の炎症がおこるための症状で、放置

することはできませんから直ちに小児科医に相談する必要があります。

(慶応大学内科 東条 毅)

第二回全難連、地域難連懇談会に参加して

佐藤 エミ子

ごぞんじの方もいらつしやる事と思いますが、昭和45年頃より保健同人社内にあつた難病友の会連絡会がその中の10団体をもつて、全国難病団体連絡協議会(全難連)として発足したのは昭和47年4月でした。以来3年数ヶ月紆余曲折のなかにも、それが呼び水となり各地に都道府県単位の難病団体(地域難連)が出来、今全国にその輪が広がっております。そして全難連よりもはるかに大きく、歴史も古い県組織や、加入団体の多い組織もあります。そうした地域難連と全難連とのこん親会が今回は9月27、28日の2日間に渡って開かれました。27日は地域の人々の話し合い、28日は地域難連と全難連との話し合いでした。地域難連は、世話人の北海道難病連の他、岩手、埼玉、東京、大阪、京都、岐阜、富山、和歌山と9団体におよび、主に各地域別の問題提起、そしてこれを今後どのように解決の道に近ずけるべきか、また各疾病別に全国組織をもつ団体で構成されている全難連としてはいかにあるべきか等々、時間の足りなさを感じながら話し合われました。

私達友の会でも埼玉県難連の代表の一人として森田かよ子さん

(埼玉県支部長)、大阪難病連代表の一人として沢田安夫氏(関西支部長)が出席され、全難病加入団体として本部より、27日が富田保蔵氏、28日が塩地一成氏と私が出席いたしました。

この2日間を通して感じた事は、古い歴史の流れのなかで、今福祉元年、難病対策とさわがれて3年、私達患者会も含めて一つの転換期に入ったと云う事でした。激しく流れる溪流が今は、ゆるやかな流れにあつまりつつあるが、やがては多くの川の流れがあつまって、そして堂々とした大河となり歴史を変えてゆくであろうと……………。

でも唯だまって流されてはいけません。例えばベッドの上からでも流れを変えることはできる筈。それは現実の、今日の苦しみを、後に続く人々に残さないことにもなる。そのためにはどうしたなら良いか、どう考えるべきか、まず問題意識を持ち、提案をすべきではないでしょうか。病気を背負った一社会人として……………。そしてそのことが、友の会さえ創れないもつと苦しい人々のためにも、語る仲間をもつ事のできた私達の役目のような気がいたしました。

支部ニュース

愛知県支部だより 支部長 百田道子

(一)会員のみなさまお変わりございませんか。愛知県支部の会員の

方々とも音信不通となりがちで申し訳なく思っております。

「難病大会」のお知らせ後、国立名古屋病院「膠原病センター」へ入院、当日の「難病大会」には出席出来ず残念に思っております。富永、鈴木氏両名にまかせっぱなしとなってしまうがお互いに仕事をかかえ、病気をかかえて支部も思うに活動が出来ずじまいですが、ご理解頂きたく存じます。

私事で恐縮ですが、今回は「血管炎」がひどく、点滴(リンデロン六ミリ)を受け現在内服に切りかわり養生を続けていますが、入院するたびに、神経が参っていくのに我れながらあきれまいます。そして、思うのは、まだまだ敬蒙運動をしなければならいと痛切に感じさせられます。一昨年の入院とは違って、難病の患者に対する理解度が深まり、良い傾向と喜んでいますが、これも種々な患者さんの大きな犠牲があった事を改めて思いしらされています。

入院直後、同室のTさん(浜松市28才主婦SLE)風邪から肺炎を起し突然死去。感染症がひどく解剖の結果SLEが直接の死因でなく心不全だったという。冷え込みとしびれがひどく足先が真青に变色し最後に動脈がつまり左脚関節下より切断してしまつた元会員のKさん(名古屋市43才主婦SLE)薬の乱用で病状が陰くされてしまい糖尿病がひどくなつてしまつた会員の横井さん(名古屋市主婦46才)パーチェット病といわれながら動脈周囲炎とも言われ長期の闘病のため予病ばかり起し、体内にカビが出来通院中の会員の

の吉田さん（名古屋市長）同じく会員の若水さん（名古屋市SLE 23才）去年の二月入院、退院後勤務先をやめ養生専一にと会社を退職したとたんひどくなり再入院、同室で目下安静中、環境の変化がストレスになるのか真夏の太陽がわざわざいするの、あれやこれやと心配することしきりのお母様。

レノノ現象がひどく五年間病名が分らず、"膠原病センター"の出来た事を聞き入院、初めて強皮症とSLEがある事が分ったというKさん、八年たった今小関節の骨がやはりスケット見えるという目下はSLEと診断松葉杖をついての通院、社会復帰が出来ないのが悩み（一宮市SLE 23才）。愛知の場合、まだ自殺者も後をたたず、

かといつて個人ではなんら動きも出さずジレンマに落入つてしまっています。寿命と単に片付けるにはあまりにも、あつけない人間の命。仲間のいる事を、"友の会"のある事を知らせてたらなんて、ちょっぴりセンチになつたりしてゐるのですが、人にはそれぞれ生き方があるのだからと目をつぶつたり、なんとも名状しがたい感情に悩まされています。

おなじ膠原病でもそれぞれ個人差があるのでなんともいえませんが多くの犠牲の元に少しづつ症状も医師に認められるようになるようです。例えば、うつ血や充血、痛みやしびれ、首、肩のこりなどの症状を医師に訴えても、なかなかとりあげてもらえなかつたんですが、患者が細かに話し訴えていくうちに、その数が多いためか、最近ではかなり重視されてきたようですが、私たち患

者側も神経質にならず冷静に自覚症状は報告するように心がけたいものと思ひ知らされています。医師と患者のコミュニケーションをもつともっと大切にしたいものです。いろんな患者さんの犠牲があつて初めて知る事柄が多だけに細心の注意を払つて自分の病状を知つておきたいものと痛感しています。明日は我が身……という事を常に意識し「難病」の活動を続けなければとベッドの中で再度考え治している次第です。激しく変る季節の変わり目、会員の皆様もどうぞ御身大切に"友の会"へのご協力よろしく願ひします。

(一) 愛知県支部後援会解散のお知らせ

新見国雄先生のお骨折りで支部後援会を作つて頂き「友の会」へ種々とお世話を願つておりましたが左記の通り、発展解散という事に決定。今後は「愛知県難病団体連合会」及「難病救済基金設立支援会議」の方面に活動される事になりました事を報告致します。

新見先生には、大変お世話になりました事を報告にて厚くお礼申し上げます。

(二) 九月七日（日）名古屋市中区、愛知県医師会館にて"第二回愛知県難病団体連合会大会"が開催されました。参加団体は十二団体とベーチェット病患者をさゝえる会、難病救済基金設立支援会議でした。当日参加した鈴木くみ子さんの報告を掲紙いたします。

第二回難病連大会に出席して

愛知県支部 鈴木 玖美子

難病に理解と協力をノスローガンに去る九月七日第二回愛知県難病団体連合会大会が県医師会館にて二〇〇余名の参加者を行なわれました。

当日は東海ラジオ天野鎮雄氏の司会で前半は県知事(代理)市長の祝辞、事業報告や感謝状贈呈等、後半は行政機関と患者代表による公開座談会が行なわれました。

早期発見の為の医師間の連携、公費負担の拡大、生活補償、年少患者に対する教育問題等について話し合われました。そのあとリウマチ友の会の伊藤大会委員長の大会宣言、名大医療社会事業部大島元子氏の閉会の挨拶をもって無事大会を終りました。

当日私も座談会に出席するつもりでしたが、その数日前から身体の調子をくずし参加出来ず、難病連のお世話で鈴木さんと云う豊橋の患者のお母さんに出席していただきました。百田支部長が入院中で今回は友の会としては、あまり積極的に活動は出来ませんでした。第一回に比べ何か活気がないように感じられました。二回の体験をもとにこれからも協力して一日も早い治療法の確立を関係機関に訴えていかなければと思っています。

尚大会当日より難病救済基金設立準備委員会(委員長天野鎮雄氏)が発足五ヶ年計画のスタートをきり、最後に大会宣言を決議無事終了いたしました。

(四) 膠原病と私

昭和四十九年十二月八日、名大病院の一室で膠原病友の会愛知県支部の総会が開かれていました。そして私はボランティアの一員としてその場に参加、受付を手伝いながら話し合いや医療相談等を半ば他人事のような気持ちで聞いているうちに、何となく不安になってきました。確かに今の自分には話に聞くような直接の症状はない。しかし……総会終了後思いきつてたずねた国立病院皮膚科の佐々田先生より、「精密検査の必要がある」と言われた時のショック、後片付けをし、皆と別れて家に帰るまでの間「まさか、私が……」頭の中にはそれしかありませんでした。

その結果、ことし一月SLEと診断されました。その夜私は思いきり泣きました。

幸い私の周囲にはボランティア活動を通じ病気に詳しい人がたくさんいました。そして私自身も、いろいろな難病に関心を持っていました。それが、いわゆる一般的に非常にむづかしいといわれる早期発見につながったのだと思っています。しかしこの私と自分の身体が何かおかしいと思い始めたのは、これより一年以上も前のこと、ある病院で「心配だから検査を」と申し出たところ、何ともない、気にするからだと言われ検査はやってもらえませんでした。以後こんど診断されるまで症状は何も変わっていません。という事はその時すでに病気だったという事になるのではないのでしょうか、聞けば何軒もの病院を回りいくつもの病名をつけ

られ、初めて膠原病と診断される方がたくさんいらっしゃいます。こんな悲しい話を聞く度に、医師に、患者自身にもう少し知識や関心があれば、動けなくなって初めて病名が確定するというような、結果にはならないはずだと痛切に思います。その為には国や関係機関が、関係者や国民に対してもっともっとP・Rや検診を徹底させ関心を高める必要があります。

そして、不幸にも病におかされた人には、経済的な負担を少しでも減らし、精神的なものが多分に影響するというこの種の病気から生活の不安だけでもとり除いてほしいと思います。

又、私がSLEと診断された時、あれほどまでにショックを受け、苦しんだ一番の理由は、医者から「治ります」というその一言が言ってもらえないからでした。

「一日も早い原因究明と治療法の確立」これが、寝ても覚めても頭をはなれない私達病人の必死の願いです。

全国膠原病友の会愛知県支部

鈴木 玖美子（二七才）

（以上の他詳細に亘って支部報告が百田支部長より寄せられて居りますが紙面の都合上割愛させていただきました。編集部）

神奈川県支部だより 支部長 河野 千鶴子

医療・療養相談会開く

五〇年七月一九日(土)県立鶴見労働福祉会館に横浜市立大学福島

孝吉（神奈川県特定疾患対策協議会会長）、市立大学谷賢治、北里大学柏崎禎夫、東京大学谷壮吉の諸先生方の御出席を得て医療、療養相談を開きました。今回は県、及び、横浜市から、補助金を交附されている関係上マスコミを通じ会員以外にも、呼びかけた結果、患者及び家族が五十二名集りました。相談会は、SLE、と強皮症皮膚筋炎、と特に腎臓疾患との三グループに分けて行い、二時間の質問時間が短く感じられる程でした。会の終了後、新入会員を受け付け、十名の会員の入会がありました。尚当日会場整理をして頂いた市立大学高等看護学校の学生の皆様、ボランティアの皆様は厚く御礼申し上げます。

以上

東京支部だより

東京支部第一回総会開催さる

富田 保蔵

あいにくまだ異常残暑の続いていた九月二十日(土)午後、東京支部第一回総会が行なわれた。

一、会場 東京都港区芝五丁目、東京都障害者福祉会館二階和室
二、出席 順天堂大学橋本博史先生、会員（東京）二五名、（神奈川）二名、会員外三名、合計三一名

三、会次第 和室会場のやわらかくくつろいだ雰囲気の中で総会は進行した。さきの全会員に対するアンケート結果を東京支部

について八月末でとりまとめたものに基づいて、その説明と意見交換、橋本先生を囲む医療相談を次の順序で行ないました。

(一) 橋本先生と運営委員の紹介、出席者の自己紹介

(二) 東京支部運営について会員の協力要請―会員若林利雄氏より運営参画の有難いお申出を受ける。

(三) 会の現状と活動状況についての説明がなされた。

(四) アンケートの回収率は七二%。これによる会員の実態調査結果の主な項目を百分率円形図を掲げて詳しい説明がなされた。

(五) 会員の希望意見のアンケート結果を次の項目に分けて説明し意見が述べられた。

(a) 医療費、医療制度

(b) 友の会の対外活動

(c) 友の会の運営

(d) 会報「膠原」

(六) 医療相談―橋本先生の懇切丁寧な御回答御説明があった。

(a) アンケートの医療相談二七件中出席者を対象とした一四件

(b) 出席者の追加相談一〇件

(終りに、御多忙の中をわざわざ御出席下さって長時間の医療相談をひきうけて下さった橋本先生に深甚な謝意を、会場の設営運営に御尽力下さったボランティアの池田氏御夫妻と桑本二郎氏に心から御礼申し上げます。また総会は寺山、松本、河村、加納、藤間、倉田、富田各運営委員の協力のもとに準備され運営が

なされました。

関西支部 だより

関西支部発行の「闘」第二号の編集が進められて居ります。斗病記録8編、詞2編他が現在投稿されたとの事ですが、関西支部としては、文集「闘」を通じて全国の皆様とも賑やかな交流をしたいとの事、まだ時間的に間に合いますので十二月中葉頃迄、関西支部迄ご投稿下さいませ。全国の皆さんで「闘」第二号を、期待しましょう。関西支部さん頑張ってください。

関西支部「闘」編集部



皆さん
の
声

(一) 私は、現在、栃木県にある、自治医大の膠原病科に入院して、四〇日になろうとしています。SLEと病名がついて、三年にな

りますが、今回は、高熱と心臓のホッサに苦しめられました。しかし、三人の先生方が、付ききりで、手下下さった、おかげで、今は気分も良く、こうしてお手紙が書けるまでになりました。現在、デカドロン1.5mm²×12をのんでいます。あまり多いので心配なのですが、先生方に、おまかせしています。あとは、私の心の持ち方一つです。重病である事は、良く知っています。だからと云って、涙を流していても、笑っていても、一日は一日なんです。だから私は、ニコニコして生活しようと決めました。

希 望

「白いかべの小さな お部屋

ひとりぼっちで ちょっぴり 淋しい

あの人が 織ってくれた たった

一羽のつる

「はやく 元気になれよ」と

ホホえんでいる

大きくて 角がおれず

ぶかっこうな つる

私の心を燃やすような

真赤な つる

がんばるは わたし

がんばろうね みんな」

栃木県河内郡南河内町薬師寺

自治医大 東七階 七一六号 入院

高 田 恵 子 22才

(二)

海に山に思いっきり遊びまわれる楽しい夏でも私は外に出る事も出来ず、人は皆真黒になっているのにまるで芋づるのように青白いしまつ、私はSLEですが膠原病と診断されたのが45年10月、三ヶ月程で退院、46年8月再び入院六ヶ月で退院その後元気で48年10月には長男を出産、身体の事も考え随分悩み、命をかける思いの出産、子供は小さく私の三日間の苦しみに共に耐えて、保育器に10日間、一ヶ月の入院後、我家につれ帰り、その後元気で成長、本当によかったです……

その思いもつかのま、49年6月急激な腹部の痛みで入院、すぐ手術しました。リンデロンの副作用とかで腸に二つも穴があいて腹膜を起こし、又、術後肺炎、苦しい日々を乗り切り五ヶ月で退院しましたが、50年3月以前から痛んでいた足がとうとう歩きづらくなり入院……特発性大腿骨頭壊死による両股関節機能障害、とうとう身体障害者手帳を持つ身になってしまいました。三ヶ月で退院しましたが若いうちは手術はしない方が良く、痛みもそのうち少しづつ良くなりますということで現在家に居ても家事が出来るではなく、毎日毎日寝たり起きたりで、ともすれば暗く沈む

気持を「膠原」を読む事で、まだまだ自分より苦しんでいる人が居るのにと頑張っています。私のような症状の方がおられるのでしょうか？ 又そのような症状を過去に体験し、現在頑張っておられる方のお便りがほしいとお便りしたのです。どうかよろしくお願いたします。

渡部 照喜

(三)

強皮症患者の訴え

二週間の私の看病を終え、今日も母は帰った。はるばる山形県鶴岡から、高血圧で倒れ、耳の不自由な父を一人残して、来ていたのであった。

こんな事が、結婚して三年、何十回繰り返し返えされたことだろう。私が強皮症で発病したのが二十二の時。病気を承知の上で夫と結婚したのが二十六才の時であった。それから一進一退の状態が続き、一昨年暮れ頃から、悪化の一途をたどっている。昨年からは五回も入院を繰り返し返している私の症状は、肺にせん維症ができていくということである。

肺活量も常人の $\frac{1}{4}$ に減り、感染症でも起せば、心不全の危険性があり、毎日毎日が、薄氷を踏む思いである。ステロイドを八年間も服用しているため、感染症にもかかり易く、すぐ風邪をひく。体重は二十Kgも減り、二十九才の若さの私は、三十Kgの骨と皮は

かりである。

先生は「何もしないで、休んで居るのが一番」とおっしゃるがそれではまるで、生きていくのか、死んでいるのか。

所詮、酷な言い方も知れないが、「病人とは、この世でも、あの世でも、受け入れられぬ者」と私は感じている。

苦しくて、苦しくて、どんなに死にたいと思っても、都合良くは死ねず、具合が良くなり、生きる欲望が出来ても、決して飛んだり、はねたり出来るわけではない。

今日も又、私は咳に苦しめられながら生きていく。私のような肺せん維症の患者さん、何か良い治療法（咳を止める）がありましたら、ぜひお教え下さい。お願いします。

相坂 喜久子

(四)

朝晩めつきり涼しくなりましたね、(膠原)のおかげで私はいろいろ助けられています。友の会の皆さんいかにおすごですか。私も友の会に入って三年程たちますけど根が筆不精なので今日やっとペンを取りました。私の病症を簡単に説明しますと次の通りです。

S 42・7・30 ~ 12・28 金沢国立病院(小児科)

中三、14才 入院、リンデロン投与(2mmg)

S 44・11・10 ~ 今日 金沢大学病院(皮フ科)入院

高二 16才

リンデロニメドロール (3mg) 1
ブレドニン (現在 2.5mg)

入院当時。発熱(40度前後) 定期的に、関節痛、今は今年の正月に3度出て、全々出ていません。S 47。10月頃から尿タンパクが、おりひどい時は、7g/8g、今は、1g/2gに落ち着いています。病気の方は落ち着いてきますけど、ステロイドによる副作用で骨がもろくなり、松葉づえをつけています。目もだいぶん悪くなりました。血管も、もろくなり、化膿しやすくなり、爪にもカンジタが、ついたりいろいろです。こういう副作用は、どうにかならないものでしょうか? 主治医の先生は、ブレドニンはズーと続けなくてはいけないと言うし、でも皆さんの体験談など見させてもらって頑張らなくてわと思えます。これからもよろしくお願いいたします。

金沢市宝町十三ノ一

市野 正子 二十二才

(五)

私は関節リウマチになって十年です。今では歩くこともできず激しい痛みもあります。歩ける間は、医者にも通いましたが、現在は家で薬を飲むだけです。

そんな毎日のある日、朝日新聞に「関節リウマチ新治療法」の見出しで、関節リウマチは原虫感染症であり、それには、ドイツ

の新薬「クロトリマゾール」が良いとの報道がありました。この薬を飲むと、早い人(軽い人)は一日で軽快し、また三日で症状が消えた人があるとのこと。私のように十年以上の重い者でも、八週間から十週間で完治するとあります。その後再発はないとのことです。

朝日新聞に聞いたところ、この薬は日本でも年内には販売されるそうですが、それが何月頃か、会の方で調べて戴けたら幸いです。今の私は一日でも早く手にいれたいと待っております。どうかよろしくお願いいたします。

一会員より

新薬の情報にまだわされないように

朝日新聞、七月二十三日(東京)、七月二十八日(大阪)に、ロンドン発APとして、リウマチの治療薬が発見されたという記事が掲載されました。

記事の内容はロンドンのイーリング、マンド、ハウンドスロー病院の顧問医師ロジャール、ワイバーンメイソン博士が、関節リウマチの原因は、原虫の感染によるものであり、原虫症治療薬「クロトリマゾール」で治るという発表を二十二日したというものです。

リウマチの原因も分った。治療薬も見つかったという記事だけに、患者としては、今すぐにも服用してみたいと思うのは当然でしょう。しかし、この薬は、まだ、日本リウマチ協会の薬効検

定委員会（委員長塩川優一先生）の検定もされておらず、その効果や副作用がどんなものであるかも全く分りません。

クロトリマゾールは、ドイツバイエル社の新薬で、武田薬品からエンペンドという商品名で市販されることが八月四日の薬事審議会（厚生大臣諮問機関）で承認されました。ただしこれは、あくまで、液及びクリームの外用剤で、皮膚真菌症（トリコモナス症、水むし、たむし）の治療薬としての承認で、リウマチとは全く関係ありません。リウマチに効果があるとすれば、改めて、薬事審議会に申請し、承認を受けなければなりません。厚生省では、リウマチの治療薬として承認したのではないということです。

友の会顧問、塩川優一先生（順天堂大学教授）のお話。

「クロロキン系のものではないでしょうか。実験しての結果でリウマチ学会で確かめたい。又、厚生省の許可も必要なので、今すぐ何とも申しあげられません。」との事でした。

一部リウマチ友の会流より抜萃させていただきました。

（ちかごろどうした事かやたらに多い新薬情報、つい数日前もガーンに特効薬という記事を目にしましたが病氣恐怖症の人々がふえたので、その安定剤なのか……と考えました。）

“今日は赤ちゃん”

十月の詩

前号よりつづく
作 蘭 茂 子

ピーヒャラドンドン

ピーヒャラドン

ねじり鉢巻

揃いのハッピ

オトナに負けるな

今日は

うれしい秋まつり

十一月の詩

みのむし

みのむし

枯葉いろ

冬のしたくも

はやばやと

ゆくらりゆらりと

もうおねむ



つづく

(13) ページから (17) ページは、

会員名簿のため

掲載しておりません。







昭和五十年十月運営委員会報告

富田保蔵

十月九日(木)午後、順天堂大学五号館三階小会議室で、塩地副会長、寺山事務局長、森田、河村、富田各委員出席。順天堂大学より橋本先生が御出席下さり、会員(文京区)岩本さんが参加された様な事が話し合われました。

議事項目次の通り。

- (一)、五〇年八月のアンケート調査による会員実態調査結果と医療相該の回答を次の膠原特集号に発表する。
- (二)、九月十九日、四十九年度会計監査が行われ、金井監査委員の承認を得た。
- (三)、運営委員と支部長による合同委員会を来る十一月八日(土)午後、東京都港区日本都市センターで開催すること、その会次第を打合せた。尚友の会の顧問の先生方にも御出席願う。
- (四)、九月二十七日(土)、二十八日(日)の地域難病団体連絡協議会九団体と全国難病団体連絡協議会との懇談会に塩地、佐藤両副会長が出席した。
- (五)、十月二十六日関西支部患者懇談会に佐藤副会長出席予定。
- (六)、小野寺前会長の夫人雅子さん死去に対し順天堂大学膠原病内科の先生方より丁寧な弔辞をいただいたこと。小野寺さんより友の会に寄付をいただいたこと。
- (七)、身障者映画について話し合い。

(八) 最近会員名簿が友の会運営、会員相互の連絡以外のPRに使用された事例があり、許せぬことで嚴重注意すること。

(九) 運営委員会記録を正しく残す事。

以上

事務局 だより

(1) 千葉の森美智子さんに赤ちゃん誕生

前北海道支部長の森さん、今年はお主人の期待にこれえて女の赤ちゃんを七月三十一日に出産、産院の中から喜びに満ちた森さんの声が事務局に届きました。母子共に元気です。皆さんも後につづいて下さい……と。
森さんおめでとうございます。

(2) アンケートにご協力ありがとうございました。

皆様のご協力により、アンケートは約七三%の方にお答えいただき、現在いろいろな形にまとめつゝあります。皆様の苦しみに会に対する希望等々多くを学ぶ事が出来、ご協力に感謝いたして居ります。いづれ時間はかゝりますが、何等かの形で皆様にアンケートのまとめとしてお届けいたします。今しばらくお待ち下さいませ。

編集後記

真夏の暑さから一足とびにおとづれた十一月中旬とかの寒さ、今年の夏は何年来と云う長い暑さがつき、入院なさった方も多かったのではないだろうか。気象に影響されやすい私達の病氣、昨日今日のこの寒さに皆様いかゞおすごしかと案じて居ります。

この膠原もお約束の二ヶ月に一度の発行をと気にしながらなかなかそれが出来ず編集員一同心苦るしく存じて居ります。何卒お許るしの上、数多い皆様の投稿をお待ちいたして居ります。

そしてこの紙上を通じて投稿くださった方々の横の輪が広がってゆく事を願って居ります。

では又次号にて、お大事に……。

佐藤

膠原編集部

編集発行
〒158

東京都世田谷区瀬田5-24-19

電話 (700) 6083

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可(毎月三回一の日発行)

昭和五十年十一月十一日発行SSKA 通巻第一七八号

発行人

身体障害者団体 定期刊行物協会
東京都世田谷区砧八-21-3

定価 八〇円